

県央二市サミット

in 鈴田峠

大村市 鈴田峠 諫早市



左から、大村市側の角谷省一商工会議所会頭、廣瀬政和市議会議長、松本崇市長、コーディネーター・菊森淳文氏（中央）、諫早市側の宮本明雄市長、並川和則市議会議長、高尾茂商工会議所会頭

11月24日、県央の拠点として隣り合う諫早市と大村市の連携を一層深めるため、両市の市長、市議会議長、商工会議所会頭など約70人が参加し、両市の市境に位置する鈴田峠で「第1回県央二市サミット」を開催し、両市の特性や資源を生かしたまちづくりなどについて活発な意見交換が行われました。



まつもと たかし
松本崇市長
大村市

OMURA ISAHAYA

- ・諫早・大村の花祭りなどビッグイベントの合同開催
- ・長崎街道の積極的な活用
- ・白木峰～富川溪谷～黒木～野岳ラインの観光ルートの開発
- ・島原半島までを視野に入れた観光開発
- ・伝統芸能や子どもたちの交流からの継続した取り組み
- 参加者の意見
- ・祭りの出し物交流やスポーツ・文化の両市合同開催
- ・大村湾を活用したマリンスポーツ体験観光客の誘致
- 今後の二市の展望
- ・両市のホームページからの情報発信
- ・イベントの共同開催
- ・グリーンツーリズムを生かした観光客の誘致
- ・小学校体育祭・中総体の合同開催による交流の拡大
- ・諫早のんのこ祭り・大村秋まつりで伝統文化の交流
- ・市民レベルで連携したスポーツ・物産交流の実現

・今回は、女性や若者のパワーによる交流を



コーディネーター
まぐもり あつひみ
菊森淳文氏

SUMMIT

第2部のサミットは、菊森氏をコーディネーターとし、宮本明雄諫早市長、松本崇大村市長、並川和則諫早市議会議長、廣瀬政和と大村市議会議長、高尾茂諫早商工会議所会頭、角谷省一 大村商工会議所会頭の6人をパネラーとして活発な意見交換が行われました。出された主な意見 ※抜粋



みやもと あきお
宮本明雄市長
諫早市

■二市連携のメリットや課題
・都市間の機能分担・分散が課題であり、これからは「競合から協調へ」の時代
・国道34号の渋滞解消のための道路拡幅の推進
・農産物の県央を代表するような特色ブランドづくり
・両市の個性を生かした観光誘致活動

第1部の基調講演では、ながさき地域政策研究所常務理事の菊森淳文氏が、「県央二市の連携と将来展望について」というテーマで、「守りの合併」ではなく「攻めの連携」が更なる「力」を生み出し、その力が「より県を強くする」と話されました。



最後に、コーディネーターの菊森氏から、「今できることからやっていくことが大事であり、例えば市民交流、スポーツ交流、祭りというような身近なところからやってみることだと思えます。行政、民間それぞれの立場から運動を進め、継続的に積極的にやっていく必要があります。今日の県央二市サミットをきっかけにして、今後も県央が長崎県を牽引しているような地域にしていくにはどうしたらいいかという観点から多くの意見をいただきたい」と締めくくりサミットは終了しました。

・今回のサミットは歴史的な一歩、高かった鈴田峠が低くなった

